



ハノイ市で行われた講演会の模様。ハノイ市ではベトナム人、在留邦人合わせて300人を超える人々が訪れた。当初用意していた席では足りず、急ぎよ会場後ろにイスが運びこまれるほどの大盛況だった

FIELD SKETCH

北野大先生の やさしい環境講座 in ベトナム

工学博士の北野大^{まさる}・明治大学理工学部教授が、JICAが広報の一環で実施するフィールドビジット・プログラムで、3月、ベトナムを訪問した。環境問題が深刻化する同国で、JICAの環境協力などの現場を視察したほか、ハノイ市とホーチミン市で「北野大先生のやさしい環境講座～ベトナムの豊かな未来のために～」と題する講演会を開催。ベトナムの人々に、先生の思いは通じたのか。

文・写真＝鍛冶澤 千重子（JICA総務部広報室）
text and photos by Kajisawa Chieko

ベトナム
VIET NAM



日本の失敗を 繰り返してほしくない

「持続可能な発展とは具体的に何ですか？
もう少し説明してください」

3月5日、ハノイ市で行われた北野先生の講演会「北野大先生のやさしい環境講座～ベトナムの豊かな未来のために～」で、ベトナム人の若い女性が質問した。

過去10年間で平均7%を超える経済成長を遂げるベトナム。経済成長とともに、都市化が急速に進み、環境問題は日増しに深刻化している。道路いっぱいになるバイクからの排気ガスで空気は汚れる一方。鼻と

口を完全に覆うマスクをしないとバイクにも乗れない状況だ。生活排水は未処理のまま垂れ流され、河川や湖などの水質も悪化している。しかし、環境問題は人々にあまり注目されていない。むしろ、環境規制を

行えば行うほど経済活動への制限がかかるのではないかと懸念する。ホーチミン市で開かれた講演会では、「経済成長と環境問題への対処は矛盾するのではないですか」という率直な質問も飛び出た。

しかし、北野先生は言つ、「まだまだ経済成長したいという気持ちも分かる。だが、次世代の幸せ、豊かさを実現するために、自分たちも豊かさを享受しながら次世代の

ことを考えていかなければならない。それは私たちが我慢することでもない。私たちも幸せに、そして子どもたちや孫たちも幸せになる。それが持続可能な発展なのです。ちょっと難しいかな」。

今のベトナムの環境問題は、「1970年代の日本と同じ状況だ」と北野先生は指摘する。当時の日本は生産優先の社会。その結果、水俣病やイタイイタイ病などの公害病に苦しみ、その後の公害対策として企業も政府も多額の費用を負担してきた。事前の予防措置が取られていれば…。「このような日本の失敗を二度と繰り返してほしくない」という北野先生の思いは強い。豊かに



モアイ像があるイースター島は、人口の増加により環境が破壊され文明が崩壊した歴史を持つ。北野先生は、古代文明崩壊の教訓を丁寧に説明した(ホーチミン市での講演会)



「サイゴンタイムズ」の記者の取材に応じる北野先生。記者からは、日本の公害の経験、ベトナムの環境問題、持続可能な発展などについて質問が挙がっていた

なった先進国が環境を意識し、持続可能な発展を唱えるのは分かるけれど、ベトナムの立場になつてみれば、環境問題について日本にあれこれ言われる筋合いはないとか、環境問題に取り組むのは時期尚早とか思うのも、仕方がないこともかもしれない。
しかし、「今のこの時期だからこそ、ベトナムの人々に『持続可能な発展』を分かってもらおう、知ってもらうことが重要です」と訴える北野先生の話に、ベトナムのJICA関係者、そして会場を訪れた在留邦人は大きくうなずいていた。

「マイバッグ」でゴミ削減

循環型社会の実現に向け、JICAはハノイ市で「3Rイニシアティブ活性化支援プロジェクト」を2006年11月から実施している。3Rとは、「Reduce(減量)」「Reuse(再利用)」「Recycle(リサイクル)」のこと。分別収集を基調とする調和の取れた3Rの取り組みを普及することが目標だ。このプロジェクトでは、まず、生ごみ、資源ごみ、その他のごみの3分別の実施を決め、モデル地域で取り組みを始めたところである。

北野先生が現場を訪れた日、プロジェクトの総括、山内尚さんが「これから住民集会有るので、先生にも参加していただきたいのですが。そのとき、この『マイバッグ』のことを説明して、住民代表にお渡ししてほしいのです」と、マイバッグを先生に手渡した。

夕方5時。夕食の準備に忙しいと思われる時刻であるが、ニュエンズーというコミュニティーの会議室では、地域住民約60人が集会の開始を待っていた。ハノイ市のごみの状況やプロジェクトの説明が行われた後、北野先生が登場。一体この人は何者だろうと見ていた住民たちは、北野先生の話に引き付けられた。「ごみを自分の庭に捨てられれば誰だって怒ります。しかし、ごみは分別すれば立派な資源になります」「地球温暖化を防止するためにはごみの削減が必要です。買い物に行くときはこの『マイバッグ』を持っていきましょう。ビニール袋などごみの削減に貢献できます」「日本には『もったいない』という言葉があります。物を大切に長く使うことも大切です」。

集会后、「話がちゃんと通じたかな。でも、住民の皆さん、たくさん集まっていたね。熱心にメモを取ったり、本当に感心しました」と北野先生。街中でたくさんの「マイバッグ」を見かけることができればいいですね。



住民にマイバッグの説明をする北野先生



JICA草の根技術協力事業で「南遊の会」が実施する「ホーチミン市カンザー天然マングローブ林保存・環境人材育成プロジェクト」のサイトを、マイバッグを持って視察する北野先生

こうした状況の中で開かれた北野先生の講演会。環境問題の改善の道のりは、まだまだ多くの困難が伴うと思われるが、真剣に取り組もうとしているベトナムの人々の背中をそつと後押しし、彼らがいつか豊かな社会を実現してくれるのではない



「ホーチミン市カンザー天然マングローブ林保存・環境人材育成プロジェクト」が行われている地域のマングローブは、ベトナム戦争時に枯葉剤の散布により破壊された。しかし、現在は国連教育科学文化機関(UNESCO)の生物圏保存地域に指定されるほどまでに樹木が回復している。「南遊の会」は、ここで日本とベトナムの青年の協同作業によるマングローブの再植樹、環境教育などを行っている

か、という期待を持つことができた、そんな講演会であった。

問題も前から興味があったようです。今回、先生のお話を聞くことができ、非常に満足していると思います」。

ベトナム政府も、環境問題をも、重要視している。質的に十分な対応が取れていない。

FIELD SKETCH

人々の環境意識を刺激した講演会

北野先生の講演に、2都市合わせて約500人のベトナム人、在留邦人が聞き入った。環境問題の基礎的な話から始まり、持続可能な発展、地球環境問題、エネルギー問題として、「もったいない」という概念、豊かさとは「少欲知足」といったことまで、パワーポイントの資料にして73枚、途中、北野先生の専門である化学物質の安全性の部分は少し高度なため省いたが、それでも実に60枚を超えるとても濃い内容。改めて環境問題のあらゆる面を知ることができ、そして環境のことを深く考えさせてくれる講演会であった。

ベトナムの人々にとっても、先生の講演会



ベトナム中部、フエ市にあるフエ中央病院では現在、「中部地域医療サービス向上プロジェクト」が実施中だ。集中治療室(ICU)で、プロジェクトの専門家・加藤紀子さん(写真右)と齋藤絹子さんから説明を受ける北野先生。この病院のICUには、バイクによる交通事故の負傷者がたくさん運ばれてくるそうだ。大気汚染源になっているバイクだが、ほとんどの人がヘルメットをかぶらずに乗るため、人の命も危うくさせている(撮影:Phan Le Binh/JICAベトナム事務所)